

# 令和元年度 津島市社会教育審議会（第1回） 結果報告

日 時 令和元年6月24日(月)  
午前10時から午前11時30分  
場 所 津島市役所 4階大会議室

## 1 あいさつ

会長、事務局長

## 2 審議事項

- (1) 主要事業の平成30年度実績報告及び令和元年度事業計画
- (2) 社会教育施設の実施事業及び利用状況について
- (3) 愛知県社会教育委員連絡協議会（西尾張支部及び海部地区を含む）の平成30年度実績報告及び令和元年度実施計画について

**【資料1】** 主要事業の平成30年度実績報告及び令和元年度事業計画  
市民大学講座、生涯学習ガイドの発行、家庭教育地域活動推進事業  
青少年健全育成事業、成人式・新成人と市長の懇談会  
つしまおやこワクワク体験活動フェスティバル！  
平和教育事業（映画会）、文化祭美術展、郷土の芸術家展  
芸能交流会、観月会、和楽器体験教室、  
歴史文化学習事業「祭りを学ぶIV」、放課後子ども教室  
文化活動全国大会出場奨励金の支給実績  
社会教育団体への財政援助状況、社会教育主事の養成

**【資料2】** 社会教育施設の実施状況及び利用状況

**【資料3】** 愛知県社会教育委員連絡協議会（西尾張支部及び海部地区を含む）  
の平成30年度実績報告及び令和元年度実施計画について

資料を基に事務局から一括説明。以下、質疑。

[委員]放課後子ども教室は、キャンセル待ちが30人もいる学校があるが、対策はあるか。

[事務局]現状の教室の広さとスタッフの人数からすると、この人数が限界なのではと  
考えている。キャンセル待ち児童を少なくする方策は出てきていない。

[委員]放課後子ども教室は文部科学省所管の事業であり、預かりや見守りの事業ではない。どちらかというと学びのための場である。しかし親からすれば、少しでも働きに行きたいから預けたいという預かり事業的な発想でいるから、これだけのキャンセル待ちがあるとも考えられる。子育て支援課の見守り事業も含めて、事業の違いがなかなか理解されていないところがある。

[委員]放課後子ども教室は預かりではなくて活動の場づくりという気持ちでスタッフもやっている。七夕パーティーや水防災カルタづくりなど開催する際、保護者の参加を呼び掛けたが参加はなかった。保護者のなかでは子ども預かりという気持ちが強いような気がしている。スタッフの意識としては活動の場づくりでやっても、毎日の対応は預かりのようになってしまう。

[委員]今美術館などでは、積極的に体験事業を展開している。土日は人がとても多く集まっているし、保護者も連れていけるが、平日は保護者も働いているので、難しいところもあるのでは。

[委員]宿題は放課後子ども教室で終わらせる場合が多い。本読みや九九なども、指導員が聞いてチェックをすれば終わったことになるので、保護者に余計に預けたいという気持ちにさせるのではないか。

[委員]まず1点が意見ですが、資料1を見せていただき、歴史的、文化的なところを重点的にやっているのが、津島市のアイデンティティを市民に知ってもらおうという意味でとても良いことだと思ったので、ぜひ続けていただきたい。2点目、資料2の公民館事業で、公民館利用者の減少や中央公民館の廃止で、ここで活動していた人たちはどこへ行ったのか教えていただきたい。3点目、資料のなかには体育施設は入っていないが問題ないのか、教えていただきたい。

[事務局]2点目について、中央公民館の利用者数が減少しているのは、平成30年度末に閉館するため、移転先が見つかった団体が平成30年度末の閉館を待たずに早期に移転したことにある。神島田公民館の方は、公民館で活動していた団体が、高齢化などにより活動をやめたことなどが挙げられる。3点目について、体育施設はスポーツ推進審議会で審議していただいている。

[委員]氷室作太夫家住居について。平成元年に市に寄贈、現在は老朽化が著しく非公開となっている。今後、社会教育施設としての長期的な展望を差し支えない範囲で教えていただきたい。

[事務局]氷室作太夫家住居については、経年劣化が著しく、見学者の安全が確保できない状態である。今後は活用に向けて計画的に保存修理をしていきたいが、予算のこともあり具体的なことはまだ決まっていない。今必要なのは、氷室作太夫家住居の今後の保存・利活用のための計画づくりと認識している。

[委員]計画を策定する具体的なスケジュールはあるか。

[事務局]できれば来年にもというところではあるが、さまざまな要因から具体的なスケジュールは決まっていない。

[委員]着手時期は来年か再来年というところでよいか。

[事務局]未定となっている。

[委員]児童科学館について、施設の老朽化が進んでいるようだが、市としてどのように考えているか。

[事務局]昨年、津島市公共施設等適正配置計画を策定した。そのなかでは、児童科学館は、建物は維持更新、機能は廃止とされている。どのような形で残していくかは今後検討していくことになる。

[会長]公共施設の老朽化への対応は市もしていると思うが、建物の廃止とともに、人の活動が停止、後退するのはあってはならないこと。中央公民館の廃止の話でも出たが、そこで活動していた人の社会教育活動の場が確保されているのか、また、市として10年後の社会教育、人が学びを通して文化や知的なものを高めていくという視点では、どういうビジョンで対応していくのかを聞かせてほしい。

[事務局]今津島市が保有する公共施設をこのまま維持するのは、市の財政面から考えても困難である。公共施設の総合管理計画の下で、適正な公共施設の配置を計画的に進めていく必要がある。この計画では、社会教育課の施設は縮小の傾向にある。そうした状況でもどうしたら社会教育・生涯学習を豊かにしていけるのかを考えなくてはならない。社会教育課としてももちろんだが、社会教育委員の皆さんにも、津島市の社会教育のあるべき姿をともに考えていただいて、社会教育審議会として、津島市の社会教育の今後のあり方を示していただくことをお願いしていきたいと考える。

[委員]市としては、民間施設の利用を促したいという考えなのか。たとえば空き家を活用して文化教室を開いたりなどは考えていないのか。

[事務局]そういう方向も視野にはあるが、あくまで公共施設等適正配置計画は、市の公共施設をどうしていくかという計画なので記載はない。

[会長]絶対になくならない施設である学校と、社会教育の接点をどうするか、もしくは、出前するという必要もあるのではないかと考えていく必要があるのではないかと。最近、ふれあいバスのお話を聞く機会があった。利用者は6万人で、ほとんどが高齢者。市役所、市民病院、図書館で降りることなので、どこをプラットフォームにすれば高齢者が生きがいを持っていけるかを考えるヒントになるのではないかと。

[委員]学校に予算を集約して、例えば理室や陶芸の窯などを作って、文化教室ができるようにするなど、学校が他の公共施設の受け皿になればよいのではないかと。

[委員]各地区のコミュニティ施設の利用状況はどうなっているか。高齢者も近くのコミュニティ施設であれば、講座や催し物に出掛けられる範囲なのではないか。

[事務局]市内8小学校区にコミュニティ施設はあるが、施設の状況は様々である。また、市は学校を核としたまちづくりをしていく方針である。余裕教室を地域住民が使えるような方向で考えていこうというのが市の方向性である。当面は公民館がなくなっても、活動がなくならないように、出前講座や社会教育の施設でない場所を活用して事業を展開することを考えていく必要がある。

[委員]学校教育課・社会教育課がそれぞれ所管している予算をまとめると、もっと学校施設に予算を使えるのではないかと思う。

[会長]ネットワークを広げる意味で、タテヨコのつながりを深めていく必要がある。

(4) その他  
特になし